

PARA Community

in TATEYAMA

1995. Vol.3

・特集 '95 パラグライディング日本選手権 in TATEYAMA

/大会ドキュメント/選手レポート

/スタッフレポート

・お知らせ

/CLUB Information/SCHOOL Information



開会式にて選手宣誓をする斉藤選手！！

発行者 : ハミングバードPGC

編集者 : ハミングバードPGC広報委員会・会報編集部

投稿受付 : JMB立山パラグライダーズスクール内

ハミングバードPGC事務局まで・・・

特集・'95パラグライディング日本選手権 in 立山！！

1995年10月7日より10月15日までの9日間の日程で、ここ立山エリアにおいて'95パラグライディング日本選手権が開催された。今年は天候にも恵まれ、競技予定日は全て飛べるという日選史上例のない7本のタスクが成立し、名実ともに日本選手権者を選ぶにふさわしい内容となった。

今回は、競技ドキュメント、選手レポート、スタッフレポートを交えて、この史上最大の日本選手権を特集する！！

驚異の7本成立！史上最大の日本選手権 in 立山！！

Report : K.Fujino

10月7日(土)、選手受付・機体検査・選手ミーティング・開会式・歓迎レセプション

朝からお世辞にも良い天気とは言えない中、日本選手権参加選手が続々とエリアの受付へ訪れる。受付・機体検査を済ませた選手たちは、明日からの競技に備えてテイクオフへ向かって行く。今日の予定は選手受付・機体検査のあと、午後から選手ミーティング・開会式・歓迎レセプションと続く。それまでの間、少しでも立山の空に慣れておきたいのが選手の本音であろう。そのため選手ミーティングに遅刻する者が続出、選手として最低のルールを守るのは当然のことであろう。先行きが心配される一幕であった。

夕方からは、開会式も無事進行、われらが斉藤選手の力強い選手宣誓で明日から繰り広げられる戦いの火蓋が切られた。その後の歓迎レセプションでは、食事もそこそこに屋外のステージで、扇澤選手、藤野選手の簡易バンドがはじまり、田中美由喜選手、峰岸選手などのトップフライヤーが歌いまくるという場面も見られ、大いに盛り上がった。

10月8日(日)、タスク1

いよいよ競技初日である。天気は朝から晴れだが風がフォロー。立山連邦もくっきり間近に見え、我々地元が判断するに南風の雰囲気朝だ。それでもテイクオフでウェイティング。昼前に風向きが変わった。日選の記念すべきタスク1本目が発表された。To1-3-1-3-8-10-8-10-8-LD1の34.2Kmのレースtoゴール。軽い肩慣らしと言ったタスクだろうか。ゲートオープンのサイレンが響き、選手が次々にテイクオフし、金山上空はカラフルなキャノピーの蚊柱が出来た。今日の条件ならばゴールする選手も出るだろうと思われたが、以外にも対岸や美女平での上がりが悪く、先頭集団、後続集団ともに対岸の大辻山下流の斜面に入り乱れた。ここで弾き出された者、焦って先に進んだ者などはバレーウインドに阻まれ、敢えなく緊急ランディングC地点へ。この中には有力選手も多く含まれていた。

大半の選手が降ってしまった後に粘りに粘ったのがわれらが斉藤選手。何と全ての選手が降りているにも関わらず、ただ一人粘って2回目の美女平パイロンを攻略するため、渋い条件の中を我慢の飛び。1時間以上粘った末、遂に美女平を攻略、時間も4時を回っていたため距離を伸ばすために美女を離れる。既に殆どの選手が帰着していたため、彼のファイナルグライドを選手全員が見守っただろう。斉藤



歓迎レセプションにてジモティー3人組

選手は緊急ランAに降り、25.9Kmを飛び単独

トップ、さい先良いスタートを切った。

10月9日(月)、タスク2

朝から曇り空、雲底が低い。天気予報では午後から回復するとの事。テイクオフは一面真っ白。今日は無理なんじゃないのか?と思ったのは私一人ではないと思う。昨日トップの斉藤選手は有名どころの選手達にからかわれている。松永さん、あんまりいじめないで!!PARAワールドに書いてもいいからさ~。

午後1時半、ガスも上がり始めいよいよタスク発表。To2-2-4-10-8-10-8-LD1の21.5Kmのレースtoゴール。このコンディション・時間ならば妥当なタスク、と言うより難易度は高い方だ。雲底が低いので、デパーチャーの2番が相当難しい。これが波乱を呼ぶとは誰も思わなかった。ゲートがオープンされるがなかなか出ない。最初に出た片岡選手は極楽ヘランディング。その後に出た鷲尾選手は金山で粘りに粘り、徐々に高度を稼いでいく。これを見た有力選手達が一齐にテイクオフ。またしても金山上空はキャノピーの渦と化した。雲底が低い(1320m)ので、2番をとって尾根に帰るのは困難と考え、陽のあたっている対岸へエスケープする作戦に出る選手達がいた。しかし、対岸は思うように上がらずに殆どの選手が撃沈。この後、予想外に条件が好転し後続の選手や粘っていた選手は楽々2番をとって4番・10番と進み始めた。対岸も徐々に上がり始め、多くの選手が8番パイロンへと向かっていく。その中でもひととき早いのがやはりこの人、黄色いXENONの仲亀選手。いつの間にか最終の美女平をとった後、翼端を折っての余裕のゴール。少し遅れて田中美由喜選手もゴールし、昨日の団子状態は少しは解消されるレース結果になった。

10月10日(火)、タスク3

昨日まで曇りベースだった週間天気予報が変わっていた。何と日曜日まで晴れ続けると言うのだ。今年の日選は既に成立している(C級以上のタスクが2本以上成立した時点で日本選手権は成立する)ので、あとはどれだけ飛べるかだ。今日は朝からまずまずの天候、3日目でもありそろそろ50Kmのタスクが来そうだと選手は予想していた。予想を裏切ることなく発表されたタスクはTO2-12-4-6-10-8-4-5-10-8-LD2の52.4Kmのレースtoゴール。デパーチャーパイロンは昨日より更に難しくゴンドラ山麓駅舎、そして後に多くの選手にとって“鬼門”と呼ばれた6番パイロン(粟巢野上部のため池横の小屋)が含まれていた。

ゲートオープンと同時に多くの選手がテイクオフ。しかし、尾根上は徐々に厚い雲が形成され、雲底も1200mと低い。我々地元としては、この状況でゴンドラ駅舎をとりに行く事自体が無謀でもんだ。それでも12番をとっていくんだな~これが。金山の遙か下を3番に向かって突っ込んで行く者、金山のグレンデ斜面に張りついて粘りちぎっている者、普段のエリアフライトでは見られない光景が繰り広げられていた。この雲底の低さが6番パイロンをとるのに決定的なダメージを与えた。金山から幸運にも4番をクリアした選手の多くは、6番をとる高度を稼ぐため、雲中に突っ込む有り様だ。僅かの高度の差が6番を撮影出来るか出来ないかの分かれ道となった。とった者、とれなかった者共に美女平の斜面に向かって突き刺さって行く。ここ美女平も選手達を苦しめた。全然上がらない。粘っても粘っても状況は一進一退を繰り返すばかり。耐えきれなかった選手が緊急ランEへ降りていく。この時、田中美由喜選手はさすがの粘りで上げ、6番パイロン前の壁に張り付いて、遂に6番を攻略した。(美由喜さんも6番とれず組だったようだ)

この日、今大会初?!の山沈が発生。機体はOMEGA3の長島選手である。そして長島選手が山沈した地点はその日のうちに「長島平」と命名された。結局3日目のトップは我等の尊師・扇澤選手、そしてXENONを駆る川地選手の二人であった。

10月11日(水)、タスク4

今日も朝から晴天、これで4日間連続で飛べる状況になった。だが、まだS級(50Km以上)はおろか

A級(30Km以上)も成立していない。全てB級タスク止まり(20Km以上)である。この原因は予想以上の渋さと雲底の低さ・雲の広がる時間が早すぎる等だ。13時過ぎには一面雲に覆われてしまうのだから、長距離のタスクが成立する筈がない。今日も同様のコンディションであろう事は容易に予想出来た。

今日も昨日に引き続きS級タスクだ。TO2-2-4-12-4-6-10-8-10-LD2、51.4Kmのレースtoゴール。コンディションは変わりやすい、今日のタスクには選手に不評だった12番・6番が含まれた大変難しいタスクだ。選手はゲートが開くと素早くテイクオフして行く。予想通りこの日も条件は渋く、雲底は1300m。この状況で2番と12番は大変きつい。7割の選手は12番をとって極楽や4番途中で降りていた。この日、他の選手を大きく引き離れた数人のトップパイロットが遂に対岸の尾根を越して行った。しかし、ゴールに到達した者はいなかった。しかし、念願のA級タスクが成立、日本選手権らしい内容になった。この日のトップは4人、松原・仲亀・谷田・竹尾であった。



最後まで美女で粘る斉藤選手

10月12日(木)、タスク5

またしても朝から晴れ。選手の表情は明るい、疲れも隠せない。なにせ昨日まで4本のタスクが成立しているのだ。勿論順位も激しく入れ替わり、誰が最終的にトップになるのかは予想出来ない。天気予報では明後日まで晴れとことなので、競技が出来れば7日間で7本のタスクが成立してしまう可能性があるからだ。ミスをした者は確実に順位を落とす。慎重に行かなければ!!

そんな選手の気持ちを察してか、今日のタスクはT02-12-4-6-11-8-11-8-4-LD1の35.3Km、充分ゴール可能なタスクだ。しかもこの日は雲底が多少回復し1400mはある。鬼門の12番・6番はあるが、デパーチャーの12番をとれば後は何とかかなりそうな感じである。多くの選手が慎重にデパーチャーをクリア、4番・6番をクリアして対岸に渡って行く。久しぶりに対岸は選手の華やかなキャノピーで彩られた。トップのカッシー(柏倉選手)がゴールし、続々と有力選手がゴールを決めた。しかし、後続のセカンドグループが最後の4番をとるために美女平を離れた時、異変が起きた。強烈な大辻山からの吹き下ろしのシンクにはまったセカンドグループはリカバリー出来ぬまま緊急ランCへ降りた。この中に仲亀・長島ら有力選手が含まれていたことが明日以降の順位に大きく影響することになった。

10月13日(金)、タスク6

さすがに5本もタスクが成立すると、トップ10の選手の顔ぶれがほぼ定着してきた。競技も残すところあと今日、明日のみ。今日も天気は良さそうだが、また雲が広がってしまうのだろうか?いささか心配だ。

本日のタスクはTO2-2-4-12-4-8-10-8-11-8-11-LD2の50.1Km。しかし、条件は渋め。なかなか選手が出ない。逆転層がきつく、サーマルが発生しない。待ちに待ってようやく選手が出始め、金山に蚊柱が出来た。今までこの混雑の中で事故が起こらなかったのは、選手間の暗黙のコミュニケーションがとれていたからだろう。しかし、遂に事故が発生した。公にはならなかったが、藤野がターコイズのレインボーと金山上空で空中接触。運良くグライダーが離れお互いに事なきを得たが、藤野のGENESISはライン切断(1本)とロワーサーフェス一部破断。タスク前半にてリタイヤ。その後間もなく3番付近で扇澤選手とXENONが空中接触し、扇澤選手のENERGYは大半のライン切断・生地破断により飛行不能、レスキューを投げる事態に!! そういえば今日は13日の金曜日、ただで済むはずはないのか。幸い怪我もなく、競技にも影響はなかった。

この日も午後から雲に覆われ、トップは2回目の8番をとるところまでで降りた。カッシーは2日連続ト

ップを奪い、足場を固めた感じだ。最後に笑うのは誰だ！！

10月14日(土)、タスク7

いよいよ競技最終日。泣いても笑っても今日が最後。そして、7日間で7本成立と言う日本選手権史上最大で最高の日本選手権者が誕生するのだ。しかも我々のエリア立山で！

今日も逆転層がきつい。そんなことにはお構いなく、発表されたラストタスクは TO2-2-4-5-4-8-11-1-8-11-1-8-11-8-LD1 の 50 . 1 Km . エリア内を一杯に使った三角パイロンだ。上がりが悪く、なかなか2番をとりに行けない。多くの選手は最終日と言うこともあってか慎重であった。しかし、トップに行く選手達は展望台レベルでデパーチャーをとりに行き、低い高度で金山から3番方向へ突っ込んで上げ返してくる。もはや我々の常識を越えたレベルで戦いが繰り広げられている。さすが日選である。トップを走ったのは小野寺選手。今大会は今一つ不調であったが、最終日は“小野寺健在”をアピールするに充分のフライトであった。なにしろ、ほとんどの選手が11番をとれず、とった選手でも1番は到底無理な状況であったのに対し、小野寺選手はそのスピードに物を言わせ、早々と1番をクリアしていたのである。さすがの一言である。

しかし、昨日まで好調のカッシーこと柏倉選手も手堅く飛んで、追いつがる選手との差を保ちながら日本選手権者となった。

10月15日(日)、表彰式・閉会式

最終日は朝からやや曇りの天候であったが、午前10時から表彰式が行われた。最終的に、安定した飛びに加えて後半波に乗った柏倉選手(山形県・XENON)が第3代日本選手権者の栄光を勝ち取った。また女子の部では田中美由喜選手(東京都・XENON)が優勝した。地元勢の結果は、斉藤選手(ENERGY)が9位、扇澤選手(ENERGY)が14位、藤野選手(GENESIS)が36位であった。

こうして7日間(全日程9日間)の日本選手権は幕を閉じた。今回の大会は、間違いなく日選史上に残るものであった。そして、その日選が我々の立山で開催され、我々クラブ員・スクール生がスタッフとして支え、成功に導いたのだ。本当に「ご苦労様でした」と言いたい。



日本選手権者の柏倉選手以下、入賞者の面々



女子の部、田中選手と和泉選手

大会結果（TOP10・地元選手）

順位	No.	氏名	都道府県	グライダー	10/8	10/9	10/10	10/11	10/12	10/13	10/14	TOTAL
1	7	柏倉 剛	山形県	XENON	745	619	740	990	1000	1000	625	5719
2	38	川地 正孝	神奈川県	XENON	622	450	1000	990	883	983	545	5472
3	4	仲亀 正幸	石川県	XENON	641	1000	740	1000	598	797	631	5407
4	25	高木 弘志	愛媛県	XENON	622	659	916	619	878	935	603	5232
5	14	松永 文也	埼玉県		-3	622	137	903	990	913	935	5133
6	31	辻 強	石川県		-3	622	659	291	990	977	872	5054
7	1	松原 彪	長野県	XENON	633	0	969	1000	957	864	560	4983
8	50	大沢 行英	兵庫県	ENERGY	622	915	925	619	828	416	625	4949
9	45	斉藤 直行	富山県	ENERGY	1000	619	53	763	864	755	671	4725
10	12	田中美由喜	東京都	XENON	544	970	630	326	877	793	117	4258
14	2	扇澤 郁	富山県	ENERGY	544	265	1000	990	679	0	627	4105
36	65	藤野 光一	富山県	GENESIS	544	20	291	285	598	46	634	2419

日本選手権・選手レポート

Report:N.Saitoh

日本選手権は昨年に引き続き2回目の出場である。前回は北九州で行われたが、ツリランしたり・・・と自分としては散々であった。今回は地元と言うこともあり、余り緊張はしていなかった。しかし、春頃から扇澤氏から『日選で優勝するしかお前がパラグライダーを続ける道はない！』とまで言われ、自分としても優勝する可能性・確率を考えると「立山しかない！」と思っていた。優勝を虎視眈々と狙っていたのだが・・・。

毎日のフライトについては藤野さんのレポートやPARAワールドを見て頂くこととして、ここでは思い出に残るフライトを書きたいと思う。

何と言っても一本目しかないでしょう！見ましたか僕の飛びを！！一斉スタートだったので美女にはトップに行くことは出来なかったものの、セカンド集団ぐらいで美女へ渡り対岸へと進む。しかし、サーマルが無い！！河原にも無い、何にも無い！！仕方がないので粘る。後続の選手が次から次へとやって来てはパイロン向かって刺さって行った。この時点でトップは10番パイロンをクリアしたものの河原にランディングしているようだ。これを見ながら小野寺さんが自分に向かって「これじゃラチあかんねえ・・・」と言ってきたので「小野寺さん我慢、我慢！」と言い返す。暫くすると上がるではないか！すかさず小野寺さんと回す回す。センタリングが合わなくてもお構いなしで・・・。小野寺さんが南へと位置をずらし自分よりも少し高くなった。「やられた！」と思ったその時、霞のようなものが上がっていくのを見つけすかさず移動、「いただき！」と言った感じでトップアウト、「小野寺さん、早く上がってきて」と思いながらもさっさと10番パイロンへと走る。パイロン撮影後、LD-Bの上くらいでサーマルをヒットして美女へと戻る。美女で粘っていると小野寺さんがランディングしたことを確認、この時トップになったことを確信した。後はLD-Eにランディングすればいい。しかし、降りる訳にはいかないのがコンペティター、国旗掲揚塔からの視線を感じながら何とか粘るが上がらない。何とか高度を獲得して「よっしゃ！！」と駅（美女平）に向くとベランダの高さ・・・。こんなことを数回繰り返しながらも美女パイロンをクリアし、10番パイロンへと向かう。残り時間が無いと思いLD-Aに降ろした。（やっぱり斉藤、フィニッシュラインクローズと

帰着申告時間を間違えてランディングしてしまったのだ！！)

みんなから「2位以下に300点以上の差があるから明日から楽だね。」とか「これで日本選手権者は確定だね。」などと嫌みを言われるが、こういう時は何を言われてもうれしい！！



意気揚々と引き上げてきた斉藤選手

2日目からは何故か(下手だから)毎日スタ沈地獄で、ゴール出来た日もあったのに情けなかった。結果としては初日の1000点が効いて総合9位とまずまずの成績に終わった。

地元の大会と言うことで選手宣誓をさせてもらい、また、多数の方々に応援して頂き感謝しております。しかし、日本選手権終了後「来年から大会は反対だ」などという根性の狭い声を耳にして心を痛めております。確かに大会中は自由には飛ばませんが、日本中で大会中にフリーフライトを許可しているのは立山くらいしかありません。それを、一部の心ないフライヤーのせいで中止になったのを大会主催者のせいにするのはおかしいことだと思います。それよりも、これほどすごい大会(95年度で世界中を見ても7本ものフライトが成立した大会は立山だけです!!)が行われる立山を誇りに思い、立地条件の悪い中を来る選手達を最高の準備・スタッフで受け入れ、「やっぱり立山が最高だね!」と言って帰っていただけ

るのが最高だと思いますがみなさん如何でしょうか?自分としては、先頭に立ってスタッフとして働きたいのですが、選手として参加している以上そうもいかず残念に思っています。みなさん、ぜひ進んでスタッフを引き受けて下さるようお願いいたします。

最後になりましたが、選手を代表してスタッフのみなさんにお礼の言葉を述べて締めくくりたいと思います。

「スタッフのみなさん、どうもありがとうございました!!」

日本選手権・スタッフレポート

日本選手権 IN 雷鳥バレーのスタッフレポート

Report:T.Sakamoto

今回、日本選手権が立山に来ると言うことで、学校をサボってスタッフに志願したわけですが、ホンッとに長くてアツと言う間の7日間でした。開幕前の「天気も下り坂になるし2日も成立すれば良いんじゃない?」「キャンセルになったら秋の紅葉でも見に行こう!」と言う思惑は見事にハズレ、7日間フルにB級(20km)以上が成立するという日本選手権史上他に類を見ない素晴らしい(選手にとって!?)大会になったのでした。

思えば日選一週間前のこと。「あ、モウくん。日選(日本選手権のコトね)の時、金山監視よろしくね」、この関沢さんの鶴の一声でボクの金山行きが決定。『Mr.金山』の建部さんが仕事と育児で毎日来ることが出来ないで、「他に誰かもっとヒマそうなヤツは居ないものか?」と言う関沢氏のお眼鏡に今回ミゴトかなったのがボクだったのだ。その結果、金山初心者と言うことで最初の3日間は建部さんにしっかりレクチャーしてもらったわけですが、コレを読んでいるあなたもおそらく金山初心者でしょうから、後学のため金山監視の仕事を簡単にまとめてこっそり教えちゃいましょう。

まず午前8時半、朝一番のゴンドラに乗り込み足早に金山を目指します。金山はファーストサーマルポイントとなるため、大会のタスク、ゲートオープン時間を決定する上でとても重要になります。そのため金山のサーマル状況を的確に掴むために少しでも早く現着して観察しなければならないからです。歩きながらも対岸の雲や上空の風に気を配りながら金山のリフト降り場に現着。

ここからが本番で色々な物をチェックしなくてははいけません。風速、風向、体感温度等の変化といった気象学に直接関係のある事象は勿論、天然ダミーのトンビからイワツバメ、トンボなどの小動物の動きまで注意します。トンボはよくサーマルに連れられて尾根に上がってくるのでサーマル探知手段の一つになります。展望台がトンボだらけになる時と同じです。さらにトンボが上がってくると他の昆虫も活動していると推測できます。

ここで次にサーマルの情報を期待できるのがイワツバメです。イワツバメは本来、トンビのようにソアリングして飛行する鳥ではないのですが、時々サーマルの中でセンタリングしています。これはエサとなる蜘蛛が糸を出し、サーマルに乗って移動するところを捕らえるためと考えられています。そして大先輩トンビのソアリングは今更言うまでもないのですが、その他にもトンビが来ても素通りしていくときは「サーマルがまだ出てないのかな？」と言ったことが考えられます。

大体以上のことからサーマル状況を判断するわけですが、これだけが金山監視の仕事ではないのです。さらに金山監視は3番、4番パイロンを取りに行った選手の確認、金山上空での危険な行為(雲中飛行や低い高度で南斜面に入るなど)の監視がありタスクの設定によっては一日中忙しい所なのです。そうやってもう金山に選手が来ることが無くなって初めて下山となります。これがだいたい午後4時、極楽坂T.O.からのブッ飛びで一日の仕事が終わります。

以上のようなことを7日間続けたわけですが、やはり一番勉強になったのはサーマルの読み方です。今まで漠然としか思い浮かばなかったサーマルの出来る過程が身をもって感じたというか、「ああ、サーマルってこんなもの」って自分の中で納得できたカンジです。もしあなたが何かの機会に金山に誘われた時はぜひ付いていくことをオススメします。直接飛びに関わると言うよりはあなたの飛びに対する概念に深みを持たせる様なことが学べることでしょう。その他にも色々面白い経験が出来ることと思います。

あと金山は飛行中のパラグライダーを撮影するのにも適したポイントなので、カメラを用意していけば帰った後の楽しみもできてバッチリですね。

1995 TATEYAMA Raicho Valley



PARAGLIDER NATIONAL CHAMPIONSHIP JAPAN

CLUB Infomation

・日本選手権、クラブ員の協力により大成功に終わる！！

‘95パラグライディング日本選手権は、クラブ員の方々のご協力のお陰で7本ものタスクが成立し、無事終了することが出来ました。みなさんの働きに感謝し、今後も同様なサポート体制により、立山の素晴らしいを訪れる選手達に知ってもらおうではありませんか！！

なにはともあれ、みなさん、本当にありがとうございました。

・驚異の新人パイロット、早くも優勝

最近何かと目立つ飛びを披露してくれていた新人パイロットが、コンペで早くも優勝を飾った。その名は「阪本 猛」、通称モウ君。彼は去る9月30日～10月1日に高山スカイパークで行われた「全日本学生パラグライダー選手権」で愛機GENESISにて出場し見事初優勝を飾った。また、先頃行われた「東伊豆パラグライディング選手権」にも出場した優勝。もはや大会荒らしの様相を呈してきている。

そんな彼ではあるから、来年からナショナルポイントシステムにも参戦するとのこと。チームCメンバーとして頑張ってもらいたい！！

・冬季フライトツアーについて・・・

すでに通達しておりますが、冬季のクラブ主催のフライトツアーは当分の間自粛しております。自粛に至った経緯については、他のエリアにおける一部のクラブ員の行動がマナー違反である旨指摘を受けており、また、そのような意識の低い状況でフライトすることによる事故発生の危険性を考慮し、クラブとしてツアーにおけるマナー（勿論ツアーのみならず、地元しかり、個人でフライトに出かける場合しかり）改善策を検討、楽しいツアーにするための一つの決断です。（ただし、このようなことは言われなくてもマナーやルールを守るのは当然のことである、言わなければならない現在の状況が恥ずかしいと思っただきたい！）

詳細については、役員会事務局までお問い合わせ下さい。

・第2回スラローム大会開催予告！

昨年開催し好評を博したスラローム大会を今年度も行いたいと思います。詳細については以下の通り。みなさん、ふるってご参加下さい。「せっかく雪あるがだからすべらんじゃ～！！」

日時：平成8年3月2日（土）、18：00集合 19：00競技スタート

場所：らいちょうパレースキー場 第一ゲレンデ

参加費：宿泊費込み ￥4,000（超破格）（ケビンを用意）

連絡先：スラローム大会事務局 松田まで・・・

TEL 0764-42-8921

なお、当日はレストランふじを集合場所にしたいと考えております。

SCHOOL Infomation

今回は、都合によりSCHOOL Informationはお休みさせていただきます。

編集後記

日本選手権が無事終わり、ゴンドラが点検・整備で運休。そして冬。今年も残すところあと3週間となりました。Gバス自粛問題でシーズンが始まり、ツアー自粛でシーズンが終わる、何とも皮肉な事でしょう。そして、高圧線宙吊り事故。この場を借りてみなさんをお願いしたい、もう一度初心に戻って安全について考えていただきたい。また、「ハミングバードはマナーが悪い」という声を耳にしたが、残念でならない。

ほんの一握りのフライヤーの行動が、我々クラブ員全てとみなされ、また、一般社会から見れば、スカイスポーツ全体として捉えられる。みなさんがふだん生活している中で何気なく守っているルールが我々の世界にもある。しかし、ふだんはそれが守られて当然であるから誰も何も言わない。これはきわめて正常な状態であり、それを口にした時は正常な状態ではないことを承知していただきたい。

パイロットは確かに自己責任でフライトを行う。しかし、自己責任とは一体何を意味しているのか？このテーマを私も考え続けたい。

くどくなりました。みなさん、お身体に気をつけて、よい年をお迎えください！！

広報委員会・会報編集部

原稿の投稿は・・・

どのような形式でも構いません。皆さんの身近な話題、ご意見、大会レポート、ツアーレポート etc を大募集！！出来た原稿は、エリアにお持ちいただくか、郵送・FAXで会報編集部までお寄せ下さい。（手書きでも、ワープロでもOK！）

フロッピーで投稿を希望される方は、1.44MBフォーマット、または1.2MB（NEC98）フォーマットされたフロッピーディスクに、TXTファイル形式で保存したものを投稿願います。

パソコン通信で投稿を希望される方は、以下のBBS、IDへメール願います。

Nifty - Serve ID QZI01576 藤野 光一

皆さんの投稿をお待ちしていま～す！！